



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 26

2018.1.17(No.2944)

クラブと地区の変革をめざそう

第2560地区ガバナー／新保 清久
 会 長／小出子恵出
 会長エレクト／松 永 一 義 (クラブ奉仕A)
 会長ノミニー／若槻八十彦 (クラブ奉仕B)
 副 会 長／五十嵐晋三
 幹 事／吉井直樹
 S A A／歸山 肇
 会 計／関川 博

例会日／毎週水曜日 12:30～

例会場／三條市旭町2-5-10
 三條信用金庫本店内
 TEL 34-3311

事務局／三條市元町2-16
 越前屋ホテル 3F
 TEL 47-0505 FAX 46-8873

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (~はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

- 本日の出席会員数:60名中43名
- 先々週出席率:89.47%

【ゲスト】

・三條商工会議所 会頭 兼古 耕一 様

【先週のメイクアップ】

- [1.10] サラソタベイRCへ
 ・川瀬康裕さん
- [1.11] 燕RCへ
 ・加藤紋次郎さん
- [1.13] 米山記念奨学生選考会(新潟)へ
 ・関川 博さん、若槻八十彦さん



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

小出子恵出 会長

みなさん、こんにちは。この度の大雪、皆さんには被害はなかったでしょうか。列車に430人が16時間も閉じ込められたことが全国ニュースになるなど、度を超すと大変です。

兼古会頭様、ご多忙のところ我ロータリークラブによろこお越しくださ



ました。後ほどお話を頂きます。

ロータリー・モットーに「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」があります。これは、キリスト教の黄金律の「あなたが他人からしてもらいたいと思うことを、他人にもしてやりなさい」から由来しているようです。

今日は、黄金律の話を知ったかぶりして話したいと思います。専門家である菊池会員が出席されているのが気になっていますが、勇気をもって話してみたいと思います。

ロータリアンは商取引では「四つのテスト」という素晴らしい判断基準がありますので、これに照らして取引契約をすれば良いと考えています。

商取引以外の、行動を起こすときに、その行為がモラルに反しているかどうかを考え、「その行為を他人が私にやっ

た場合に受け入れられるか」問うことが行われると思います。「自分だけのための例外を作っていないか」までは考えないにしても、何等かの判定をしています。

この考え方に基づいたものが黄金律でなかろうかと思っています。黄金律はほとんどの宗教、哲学の中に示されています。例えば、

古代ギリシャ哲学：隣人から敵意を抱かせるようなことをしてはならない

儒教：自分にしてほしくないことを人にしてはならない

仏教：他人の不幸の上に自身の幸福を築くな。他人の幸せを、自ら望んで探し求めなさい

イスラム教：自分が人から危害を受けたくなければ、誰にも危害を加えないことである

ヒンズー教：他人からしてもらいたくないと思う、いかなることも他人にしてはいけない

ユダヤ教：あなたが隣人からしてもらいたくないことを、隣人にしてはいけません

表現の仕方には肯定する・ポジティブな表現と、ベクトルが反対になる、日本人好きな否定する・ネガティブな表現に二分されます。

人によっては「余計なお世話」と感じることもあります。他人に対して、思いやりと誠実をもって接して、相手の言い分にも耳を傾けることができるなら、別にどの宗教の黄金律を持っていようが、人間として立派な生き方ができると思います。

このように、黄金律はすべての宗教や哲学的思考の中で、ほぼ同じ表現です。例え、宗教と奉仕哲学との差があったとしても、隣人に対して己を捧げることが道徳上の義務であり、人生のすべての部門でそれを適用することを説いた、ロータリーの奉仕理念と合致することは間違いないと思っています。

幹事報告

吉井直樹 幹事

◎三条RACより

「1月第二例会のご案内」

日時 1月25日(木) 19:30～

会場 リサーチコア 4階・異業種交流室

※ロータリーアクトクラブの例会参加はメーカーアップ扱いになります。ふるってご参加ください。

◎新保ガバナー事務所より

「障がい者就労促進・

地区財団活動資金活用セミナーのご案内」

日時 2月24日(土) 14:00～17:00

会場 ホテルオークラ新潟 4階・コンチネンタル

◎ロータリー囲碁同好会より

「第19回ロータリー国際囲碁大会のご案内」

日時 4月22日(日) 登録受付 9:00～

会場 日本棋院会館本院 (東京・市ヶ谷)

締切 3月20日(火)

◎川瀬ガバナーエレクトより

「サラソタベイRCでのホームステイプログラム終了のお知らせ」

プログラムの様子はサラソタベイRCのホームページに掲載されております。

また、川瀬ガバナーエレクトからのメッセージは地区ホームページ内、ガバナーエレクト情報の「お知らせ」に掲載されております。ぜひご覧ください。

◎いからしの里 元川園長より、サンタクロース派遣のお礼状が届いております。

ニコニコBOX

小出子恵出会長

大雪は大変でした。皆様のところはいかがでしたでしょうか。里雪で〇〇でした。

兼古会頭、ありがとうございます。

高橋 司さん

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

斎藤弘文さん

兼古会頭様を心より歓迎致します。素晴らしい新年会の開催、本当におめでとう御座居ます。

山田富義さん

兼古会頭、卓話ありがとうございます。

加藤紋次郎さん

新年明けましておめでとうございます。

兼古会頭ありがとうございます。

近藤雄介さん

兼古会頭、ご多忙の所ありがとうございます。

熊倉昌平さん

三条商工会議所 兼古耕一様を歓迎申し上げます。

本日は卓話ありがとうございます。

五十嵐昭一さん

三条商工会議所会頭 兼古さん、ようこそお出で下さいました。ありがとうございます。

小林敬典さん

兼古会頭がんばって下さい。活躍を期しております。

渡辺勝利さん

兼古会頭あけましておめでとうございます。卓話ありがとうございます。

吉井直樹さん

大雪の寒い中、近所の皆様と声を掛け合い除雪をしました。皆で助け合い、温かい気持ちになりました。

本日兼古会頭、宜しく申し上げます。

衛藤泰男さん

週末のドカ雪で野鳥たちがお腹をすかし、我家の南天の実を食べに来ました。

兼古会頭様、卓話ありがとうございます。

小林吾郎さん

雪どけがちょうどよい筋トレになりました。

樺山 仁さん

雨のおかげで雪が少なくなって来ました。本日の兼古会頭の卓話に期待しております。

松永一義さん

体のふしぶしがおかしい。雪はもういらぬです。

兼古会頭、卓話宜しく申し上げます。

菊池 渉さん

大雪の時は車を捨て、冷えた時は外出を止め、全く「おまかせ」で生きていきたいと思っています。

石橋育於さん

兼古会頭、卓話ありがとうございます。都合により早退いたします。

明田川賢一さん、野崎喜一郎さん、斎藤真澄さん、荻根澤隆雄さん、五十嵐晋三さん、小越憲泰さん、中村信一さん、金子俊郎さん、小林卓哉さん、若槻八十彦さん、丸山行彦さん、歸山 肇さん、船越良則さん、五十嵐博宣さん、杉山幸英さん、柳取崇之さん、阿部吉弘さん、石黒良行さん

三条商工会議所会頭 兼古様を歓迎申し上げます。本日は卓話ありがとうございます。お話楽しみにしております。

1月17日分 ￥ 47,000
今年度累計 ￥ 828,000

「卓話」

「鍛冶から始まる燕三条の産業変遷」

三条商工会議所

会頭 兼古 耕一様

地域産業の成り立ち {一般論}

北陸…冬の農閑期(副業)→
機屋 眼鏡 加工業
製造業
瀬戸内海…海が静かで深い→
造船業



内部で技術を作っていく…治具・工具は自分で作る
取引先が近い 金融機関がある
大量生産に効率的に対応する為 → 分業化
製販の分離 工程の分業

産地の長所が現在では短所になってしまった

→ 短所が長所になる時代

1、古代の燕・三条

燕 古くは「津波目」と標記、「津」は港(船着場)、波頭(水上)、「目」は中心地
三条 茅萱に被われた氾濫原 (蒲原平野)
山の手(下田郷)から平場へ
(大崎山を頂点とした扇状地)

三条の発生

大崎から移った三条 **大槻の庄(槻田)**
(槻の森運動公園・大月・槻田神社)

三条の地名現わる 三条左エ門…
三条・長岡・見附・加茂(京都風名称)

2、鎌倉・室町期の三条

三条の市と **鑄物師本座**

(西大崎・大崎中学校の校庭付近で発掘)

河内の国から鑄物師が来住

(柏崎大窪・頸城の青野)越後三本座

大崎地区は城下町として栄え、七日の市が開かれ針座・蠟座・銅座があった。

金川・カネ小路の地名が残っていた。上野原に金屋、麻布谷に金ヶ入地名

当時の鑄物師は梵鐘(南会津の禅宗の寺・法用寺) 鰐口(1471銘・八幡宮) 鍋釜を鑄ただけでなく、鋏鎌を作る鍛冶も行っていた。

3、徳川初期の三条 (当時の燕は三条領内)

三条の領土は幕府直轄地(天領)へ、二代目代官「大谷清兵衛」出雲崎代官を兼務

出雲崎の代官所…北陸街道の宿場町

北前船の寄港地 越後の米を運ぶ便利な港
御奉行船による佐渡金山の金銀の陸揚げ港

高田藩・長岡藩・新発田藩の力を抑えるのに都合の良い場所

江戸より鍛冶職人を招く、農民の副業として

三条・燕和釘のおこり

(釘鍛冶千人・問屋数十軒)

代官は直売買を許さず、城下の三条商人に販売権を委ねた。(土農工商の身分制度)

江戸にまで販路拡大 大江戸の大火により需要増
三条城廃止 商都三条の発足

(中下越で最大の町、蒲原の穀倉地帯を背景とした交通の要所)

1665年 検地帳に鍛冶町の記載

天和年間(1681年～)新田開発用に農具(鎌・鋏)の需要が高まり生産を開始。

また刃物生産に必要なヤットコ等の道具についても自らが生産。

4、村上領(内藤藩)時代の三条

野鍛冶の台頭

商工次第に伸びる 呉服・小間物・唐物・米穀などの集積・分散

(京呉服の荷開き・蒲原一円(の米))

陣屋の設置・本願寺掛所の建立一真宗大谷派
三条別院(東別院) 仏都三条(門前町)として賑わう

一の木戸村など高崎藩領となる

三条、一の木戸の抗争・商いを禁じられた一
の木戸、田島

三大物産の基礎できる(染物・足袋・金物)

市の日に三条地震起こる(1828年)・悲惨極まる
ゴゼ口説き

重なる災害に苦しむ住民…地震・洪水・火事
呉服商 渋谷善助(大庄屋)大阪鴻池善右衛門
から融資を受け米穀を送る

浄土真宗本願寺三条別院(西別院)被災者供養
のため建立

一の木戸、田島、燕、与板、月潟、白根の金
物類は全て三条商人に依存

三条鉄物渡世(金物商人)と燕との争い

細分されていた藩領(村上藩・高崎藩・新発
田藩・会津藩・池之端・三日月市・桑名天領)

三条地域に於ける金属関連商品(江戸時代後期)

和釘 打ち刃物(包丁・小刀・斧・マサカリ)

大工道具(ノミ・鉋・鋸) 農具(鎌・鋏・クワ)

(木鋏・鉋・包丁・切出し小刀等1854年には
鍛冶屋が54件となり重要産業となった。出雲
の和鋼が三条へも広く普及

三条の刃物を含む鍛冶製品の発展は、主要交通路であった河川による交易の便が良く、鍛冶に必要な炭や砥石が近在で取れた事、金物問屋が大きな役割を果たしてきた。

金物問屋の販路 → 関東を中心に

(越後・信州・東北へも)

金物問屋の機能 → 各地で発見した新製品やニーズを持ち帰り、鍛冶職人に提案、鍛冶職人はそれを作ると言う循環

多くの地域で災害が発生 → 復興需要

三条の鍛冶製品が売れ、製品が多種多様

幕末期の三条商人 金物を入れた大きな荷物を担いで各地に行商に出かけた。

群馬・茨城・千葉・東京の一部・長野・福島・岩手・青森等

燕地域に於ける金属関連商品

和釘の需要の減退 → 鍋等の家庭用品鋸・鎌等の農具・ヤスリ製

元禄時代 問瀬銅山が開かれる →

日用品の銅器 キセル・矢立・花器

(江戸や会津より技術者を招聘)

5、明治時代の三条

宿願の商売自由となる一行商による金物専門商人の出現・販路拡大

新潟・長岡間に蒸気船の運航を開始

企業を支えた徒弟と子女・惨めな職人生活(染め物、織物職人の更に下) 足袋と染色
鉄道開通で商権に秋風(北越鉄道)

明治の身分制度崩壊(職業の自由化)鍛冶職への転身多、明治7年の職業調査では鍛冶屋が353件と急激な増加。

明治8年の生産額ではそれまでの鋌や釘→

刃物(鋏・小刀)生産量増。

鍛冶屋が「なま鍛冶」(刃物以外)から「刃物鍛冶」に大きく転換。

米穀取引所の設立・金融機関の続出

燕の洋食器は横浜の海軍向けから始まった(燕物産による)

《明治後期》和鉄、和鋼に変わり輸入鋼

(精錬工程を要しない洋鋼)の普及である。

生産効率はかなり上る。日露戦争による軍需品の注文増(鋸・鉋・鋏・ナイフ等)

6、大正時代

三条地域

転業迫った欧州大戦 大正4年から好況
ナイフや南京錠の生産が盛んになった
関東大震災「金物の三条」大工道具・家庭金物
弥彦線開通

燕地域

和釘→洋釘 キセル→紙巻煙草 矢立→万年筆
銅→アルミ 燕の産業は崩壊寸前に至る
問屋により洋食器が持ち込まれた(第一次世界大戦によりドイツから輸入できなくなった英・露からの大量受注)

7、昭和初期時代

大恐慌に商工とも沈滞
満州事変の勃発により、軍需産業の無制限拡充と平和民需品も大量に必要
一時期衰退気味だった金物製品が上昇

三条における生産品目

倉庫錠・パール・スコヤ・ツルハシ・ステンレス曲尺・ポンドハンマー・洋ばさみ
クリックボール・ミシン部品・モンキーレンチ・鋳物製品・屋根鋏・羅紗切鋏・ペンチ・プライヤー
工場制工業へ移行 手工業から動力機械による生産拡大(満州事変より軍需産業)
家庭金物・利器工匠具・大工道具・農機具・工作機

8、戦後

米兵の進駐

燕地域

米軍からのカクテル用品の注文→洋食器の生産再開
ハウスウエアと呼ばれる厨房用器物に発展(ポット・ピッチャー・ケトル・ボール・トレイ・キッチンスプーン・お玉)
対米輸出規制また度重なる円高を期にハウスウエアへ業種転換
輸出市場から国内市場へ(ステンレス・チタン・マグネシウム等の新分野開拓)

三条地域

昭和37年頃、従業員数の多い工場が少なく、3名以下の工場が80%を占めていた。
大量の受注に応ずることが出来なく、地元製品の不足を補うためのも、他産地の製品を移入せねばならず、三条商人が次第に集散地問屋化してきた。

これはかつて京阪地方に産する呉服太物類をもって、越後はもちろん、関東、東北地方に覇を唱えた三条商権60年後に金物製品に変わった。金物を全国に販売

終戦後は大量生産へ製造業の二極化 量産を目指した工場と一貫して手作りを守る鍛冶職人(プロ用と汎用)鍛冶職人の数は徐々に減少。

問屋制度も力が弱まり→鍛冶屋との関係が薄らいできた。消費者も価格が安く、商品に拘りが無くなったことや道具自体の電動化が進み、手道具の需要が年々減少。

残った鍛冶屋は岩崎航介やその息子の岩崎重義等から冶金学を学び口伝や勘が主流だった鍛冶の技に科学的な知識を加えながら技術を磨いてきた。

時代に翻弄されながらも伝統技術を継承した手作りの打刃物は今も越後三条打刃物職人の手によって、脈々と受け継がれている。

三条の刃物産業は零細であったため分業化せずに生き残り、それが強みに変わった。(栄地区は分業化が進んでいた為、後継者不足で悩む)

燕の産業構造

各作業工程を支える零細企業群が、元請けを頂点にするピラミッド型

半製品が各工程に運ばれ、ランニングコストが上昇、しかし重層構造故に下請け業者が少しずつ値引きに泣きながら深夜まで残業をこなして克服した。

(過去には不渡りを出しても翌日から営業する町と言われた)

洋食器やハウスウエア製造は、支え合い体制故に円高など数々の危機を乗切ってきた。しかし伝統的な構造が温存され、機械化や自動化等の近代化を遅れさせた面もある。燕の一番の弱点は、自動化による最新の機械が少ない。機械は専用機で応用が利かない。

当時のコスト削減は、自ら機械を導入して近代化を図るより、手っ取り早く中国に生産拠点を移してしまう方を選択。それが産地の衰退に繋がり、自らの首を絞めることになった。結果的にコスト(人件費)の上昇が産地を空洞化させた。



RI創立記念日

「新年会」のご案内

日時 2018年2月14日(水) 18:30~

会場 越前屋ホテル

次週例会 1月31日

「外部卓話」

東京中小企業投資育成株式会社
業務第五部長 田中保行 様

次々週例会 2月7日

「会員卓話」 相場弘介 会員

